

# お知らせ

平成23年3月28日  
日本原子力発電株式会社

## 東北地方太平洋沖地震後の東海第二発電所の状況について (3月28日現在の状況)

3月11日の東北地方太平洋沖地震により、定格熱出力一定運転中の東海第二発電所（沸騰水型軽水炉：定格電気出力110万kw）は、同日14時48分にタービン振動大によりタービンが停止し、原子炉が自動停止しました。その後の東海第二発電所の状況についてお知らせします。

1. 原子炉施設等の状況
  - ・原子炉は冷温停止状態で、水位、圧力、温度ともに安定しております。
2. 周辺環境への放射能の影響
  - ・モニタリングポストなど、環境放射線モニタの指示値は他発電所の影響を受け、通常より若干高めの指示を示しておりますが、排気筒放射線モニタ指示値は通常の範囲内での変動であり、東海第二発電所からの放射性物質等の放出によるものではありません。  
今後も引き続き監視してまいります。
3. 電源系統
  - ・外部常用電源（275kV）にて所内電源系統は確保しています。
  - ・外部予備電源（154kV）および非常用ディーゼル発電機（3台）は待機中です。
4. 地震による各設備の調査状況
  - (1) 2C非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ点検結果

2C非常用ディーゼル発電機用海水ポンプについては、3月18日に実用炉規則第19条の17第3号の報告事項に該当すると判断し国へ報告、詳細な調査を進めておりますが、本日中間報告として国、地元自治体へ報告いたしました。

原因としては、海水ポンプ室内の北側ポンプ室に津波により海水が浸入して、当該海水ポンプ電動機が海水により水没したことから、過負荷により自動停止しました。

対策としては、北側ポンプ室の応急措置として、止水措置を実施しました。  
また、水没した当該電動機の固定子および回転子については、洗浄乾燥させ軸受け等を交換し、試運転を行い異常のないことを確認しました。

今後は、原因調査結果を踏まえ、所要の対策を実施いたします。

(2) サービス建屋実験室サンプ\*<sup>1</sup>（管理区域）から原子炉建屋バッテリー室（非管理区域）へのサンプ水流入について

3月11日21時50分頃、複合建屋1階のバッテリー室（非管理区域）に、床ドレンファンネル\*<sup>2</sup>よりの漏えい水が確認されました。バッテリー\*<sup>3</sup>保護のため直ちに漏えい水を排出することが必要と判断し、漏えい水の放射能測定を行い、汚染のないことを確認した上で、非常用ディーゼル発電機室屋上（非管理区域）に排水しました。

その後、原子炉が冷温停止状態に移行し安定した後に、漏えい水の流入経路を調査していたところ、バッテリー室（非管理区域）の床ドレンファンネルの溢水についてはサービス建屋実験室サンプ（管理区域）からの水によるものと特定しました。また、漏えい水のサンプルについて、放射能分析を実施した結果、トリチウム、コバルト58ならびにコバルト60が検出されましたが、いずれも微量であり、周辺監視区域外の水中濃度限度の約四千分の1\*<sup>4</sup>の線量でした。以上の結果から、本事象による環境への影響はありません。

この事象が、実用炉規則第19条の17第9号の報告事項に該当すると判断し、本日、国へ報告しました。今後、詳細な調査を進めてまいります。

- \* 1 実験室サンプ：管理区域内の液体サンプルを収集し成分等の分析を行うその後の排水を受ける溜（貯水槽）。  
溜まった水は液体廃棄物処理系へポンプにより移送される。
- \* 2 床ドレンファンネル：床面に設置された排水口。
- \* 3 バッテリー：発電所直流電源系（制御電源系）で、複数系統による多重性を有する。
- \* 4  $1/4000 \approx 0.0003\text{mSv}$ は、胸のX線レントゲン線量 約 $0.05\text{mSv}/\text{回}$ と比較すると、約200分の1に相当。

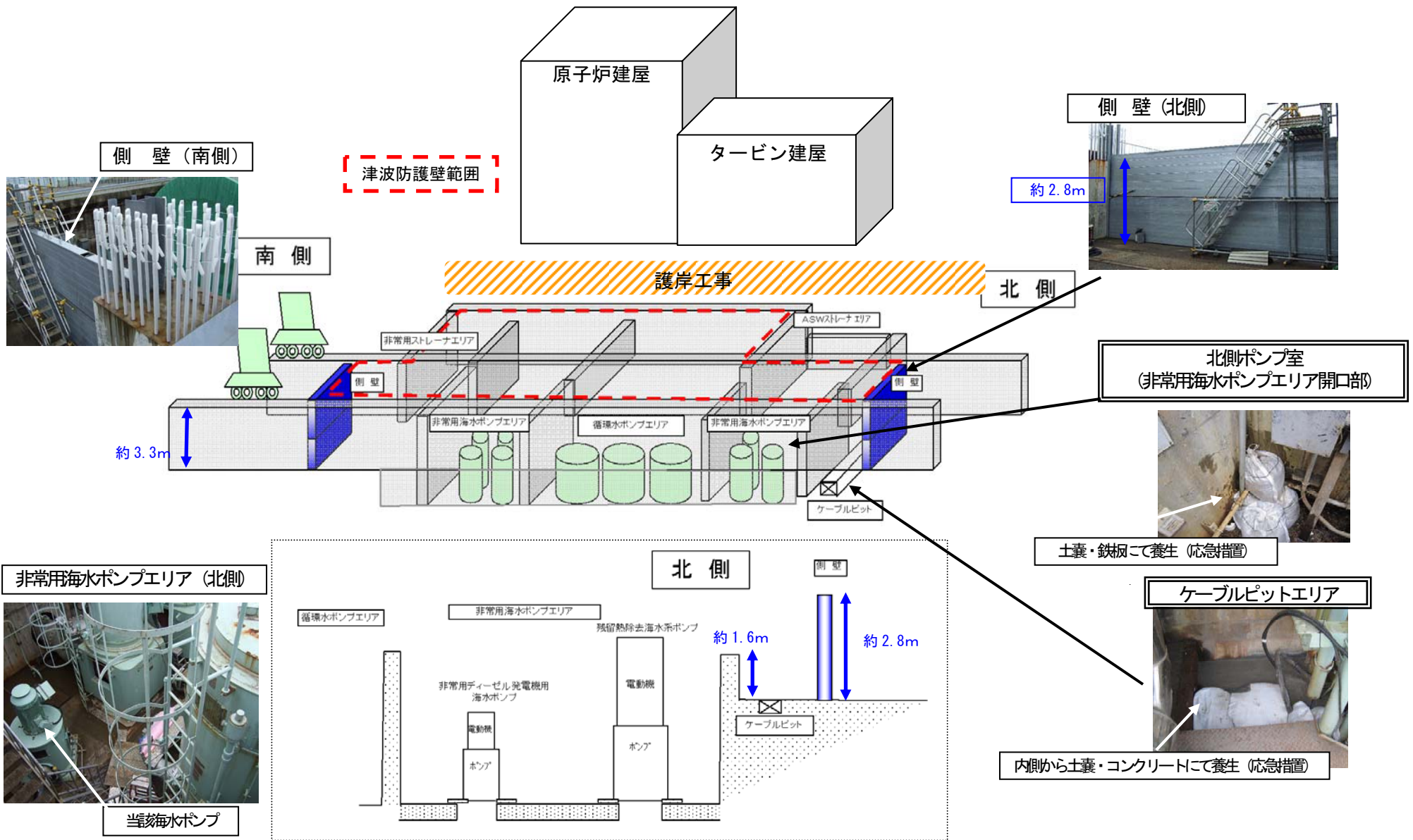
添付資料 1 東海第二発電所 取水口周りの海水ポンプエリア状況図

添付資料 2 実験室およびバッテリー室配置図

以 上

問合せ先：日本原子力発電株式会社  
広 報 室 荻 野・椎 名  
TEL：03-6371-7300

# 東海第二発電所 取水口周りの海水ポンプエリア状況図



非常用海水ポンプエリア (北側)



当該海水ポンプ

北側ポンプ室 (非常用海水ポンプエリア開口部)



土嚢・鉄板にて養生 (応急措置)

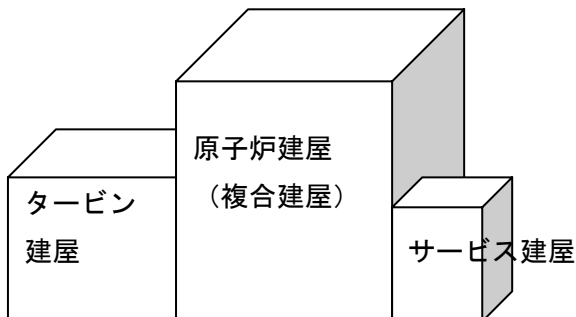
ケーブルピットエリア



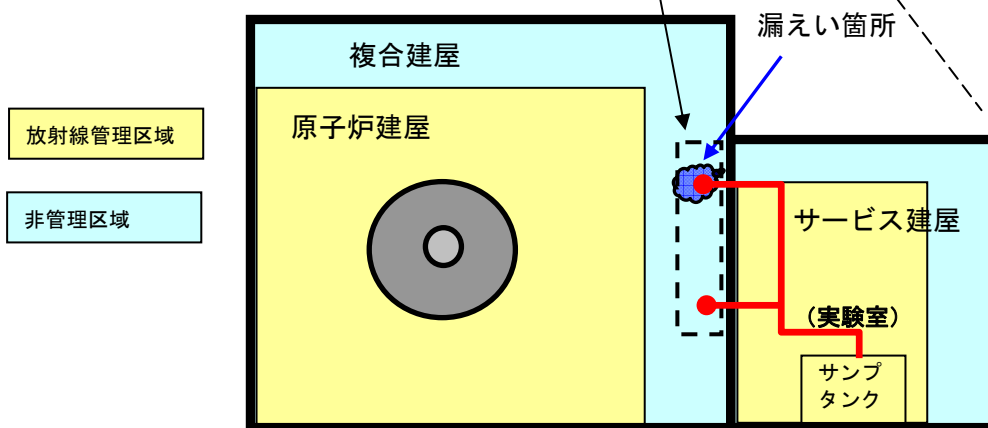
内側から土嚢・コンクリートにて養生 (応急措置)

## 実験室およびバッテリー室配置図

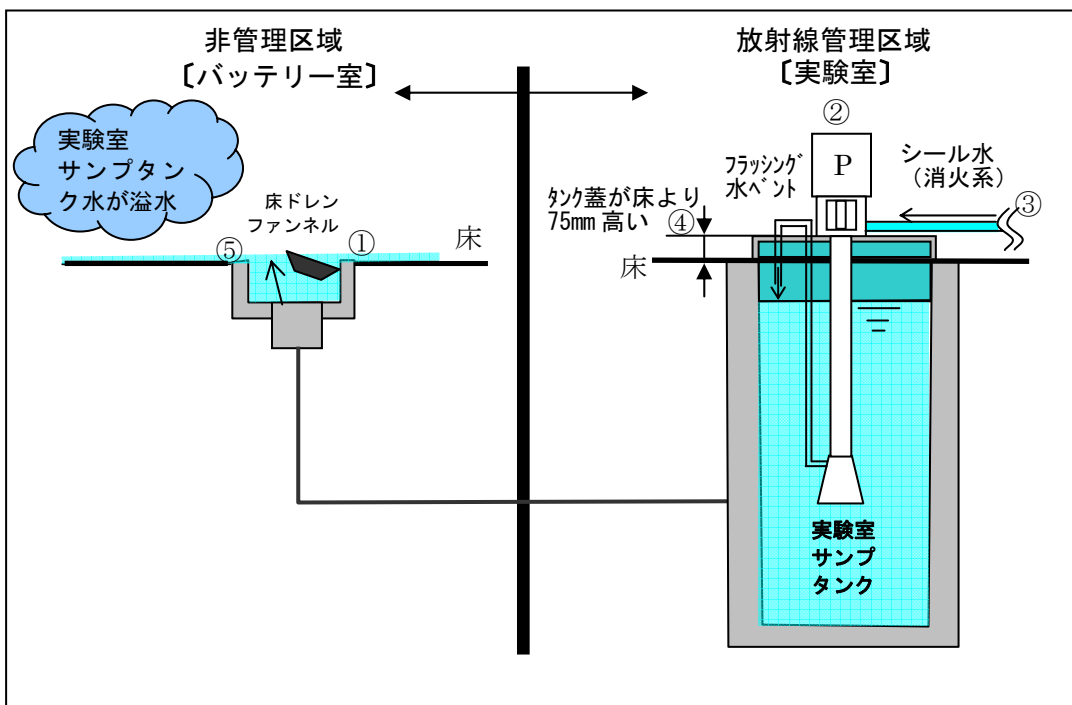
建屋配置図



平面概略図 (配置図)



配管設置概略図



- ①地震時またはその後に、ゴム製の栓が外れた。
- ②実験室サンプポンプ電源喪失により実験室サンプポンプ運転不可  
(水位が上がっても排水ができない)
- ③実験室サンプポンプのシール水 (消火系)が継続流入
- ④実験室サンプタンク満水
- ⑤実験室サンプタンク上部より75mm低いバッテリー室床ドレンファンネルより溢水